

熊本日日新聞記事

1月26日(木)

2023.1.26

「子どもたちを守ってあげられなかった後悔がずっとある」

熊本乳児院(熊本市)の元職員3人が、子どもたちへの身体的虐待が疑われる行為が施設内で繰り返し行われていたと証言した。取材班によると証言内容は細部にわたり、「もし、わが子が保育園でそんな仕打ちを受けたと思ったら、親として耐えられない」とも語ったという。現在は市による調査が続いている。

保育園と乳児院は、子どもを預かるという意味においては似た施設だ。異なるのは養育時間の長さ。保育園は親が働いている時間の養育を受け持つが、さまざまな事情で親元で暮らせない子どもを預かる乳児院は24時間体制となる。

日常的に子どもを見守る親の目もない。元職員の証言には「虐待をする職員を見ると、1、2歳の子どもがおびえたり、硬直したりしてかわいそうだった」といった子どもの変化につながる内容も含まれていた。

射程 子どもを守るためには

仮に保育園の中で起きた虐待であれば、子どもの異変がわずかであっても親が保育園にただし、事態の改善につながったかもしれない。

児童福祉法制定を機に設置された乳児院は全国に145カ所(2021年3月末現在)あり、最近は家庭に近い生活体験を持ちやすいとして小規模化が推奨されているという。しかし、小規模化にはマイナス面もあることを忘れてはならない。

中の様子が周囲に伝わりにくかったり、職員の独善的な振る舞いにつながったりする危険性もある。元職員の証言でも、他の職員がしている行為に口をはさみにくい状況が指摘されていた。現場で気になることがあつたら誰に相談すればいいのか。第三者的な立場で相談に応じる組織も必要ではないか。

幼い子どもは自分の言葉で被害を訴えることができない。大人の目が頼りであることを、全ての大人が肝に銘じるべきだ。(田端美華)